

市民自治検討プロジェクトチーム（第3回）会議概要

日時：平成18年1月31日（火）13：30～15：50

場所：市役所401・402会議室

1．第1・第2回会議内容の確認について

事務局から市民自治検討プロジェクトチームについて、これまでの経緯等を説明した後、メンバー追加の理由等について補足説明を行った。

2．辞令書の交付について

チームメンバーに辞令書が交付された後、事務局から、第2回会議で本プロジェクトチームのリーダーに総合計画を所管する企画政策課の奥畑補佐が互選により選任されたこと、さらに、本日はリーダーの指名によりサブリーダーを選任する必要があることを説明した。

生駒市にとっても少子・高齢化は重要な課題であり、そういった観点から福祉部門の奥谷補佐をサブリーダーに指名するので、宜しく願いたい。

3．市民と行政の協働について

本日チームメンバーの全員が揃ったので、最初にメンバー間で共通認識をもつため「市民と行政との協働について」その必要性及び行政の取り組みについて問題点を整理した。

4．市民自治検討委員会設置にむけて

本プロジェクトチームの当面の目的は、市民自治検討委員会のメンバー構成、職員研修の充実のあり方の二つについて検討することである。3月中には設立準備会でメンバー構成の検討を行い、その後、設立準備会から市長へ提言というスケジュールを考えているので、プロジェクトチームでは2月末までにメンバーの検討を行いたい。まず、設立準備会の最終報告書にあるアンケートの結果について説明してほしい。

事務局から職員アンケート、シンポジウムの会場アンケートの結果について、主に職員研修の充実という観点から説明。

アンケートの結果をみると、やはり「協働」について市民と職員の意識にはギャップがある。

市役所に入って以来ずっと「市民のための行政サービスの向上」が使命と考えてきたので、「市民と一緒にやる」という意識は低かった。地方分権という中で今までの行政運営のあり方に疑問が生じてきている。

職員の間では「市民との協働になじむ分野」で進めていけばよいという意見が多いが、市役所のすべての分野で協働は可能だと思う。

事務局から、市民自治検討委員会のメンバー構成のあり方について、設立準備会の検討結果を説明した後、特に「市内で活動実績のある各種団体を代表する者」の具体的なメンバーについて協議。

活動実績のある各種団体を15程度選ぶことになるが、準備会では、市民の生活分野別、世代別、特性別といった三つの視点からチェックして、各種団体のバランスを図るようにとの提言があった。各課の施策の中でどのような団体を協働の対象と考えているのか意見を伺いたい。

緑の基本計画を策定する際に、委員会、懇話会を設置し、緑化の分野で活動実績のある各種団体の方に参加していただいた。

環境の分野においては、環境基本計画策定の際に委員会、懇話会を設置し、各種団体に参加いただいた。今は環境審議会を中心とし、環境まちづくり実践市民会議が設置されている。

各部から一つずつ団体を出すという方法もあるのではないかな。

プロジェクトチームから設立準備会に報告する時に、先ほどの三つの分野別バランスなどを踏まえ、きちっと考え方を出す必要がある。

男女協働参画計画策定の関係で、委員会、懇話会を設置し、各種団体の方に参加いただいた。

設立準備会において、働く女性の意見を代表する団体の参加も必要ではないかとの意見があった。生駒市にそのような団体はあるのかな。

ワーキングマザーの会のようなものはないが、保育園の保護者会はそれに該当するのではないかな。

福祉の分野では五つの計画をまとめてハートフルプランを策定しており、その策定委員会には子どもから高齢者まで幅広い活動団体の方に参加していただいている。その際、全市的に網羅できる団体、支援団体、利用者団体という三つの側面から選んだ。

市民から一般公募する場合、比較的年齢の高い人が応募されるという傾向があるので、若い人にも参加してもらえようPRしていく必要がある。

障がい者団体について、すべての障がい者を代表する団体はあるのか。

身体障がい者と知的障がい者を統合する団体があるが、精神障がい者は別団体となっている。

都市計画マスタープランについては、北・中・南の各エリアの地域別構想を策定することを主な目的として懇話会を設置した。そのため、各種団体も3つのエリア毎に選定した。

国際化や安全・安心の分野についてはどうか。

国際化基本指針策定のワーキングメンバーには在日外国人保護者の会などの方に参加をいただいた。安全・安心については、市長部局よりも消防や警察ということになってくる。

設立準備会では、事業者として、近鉄、KCN、マスコミ等はどうかとの話もあった。

市内に15あるNPOをどうするか。ここで代表となる団体を決めることはできないが、どのようなNPOがどのような活動をしているかの情報を共有する必要がある。

自主防災組織はどうか。

市内に33の自主防災会があるが、基本的には自治会が活動しているものであり、独自の組織があるものではない。生駒台小学校区だけには少年消防クラブ、女性防火クラブがある。

消防団はどうか。

消防団員は非常勤の特別職公務員であり、市民の代表とは言い難い。

本市の生涯学習で特徴があるのは生駒市自主学习グループ連絡会である。参加グループ、人員も多く、市行事への協力にも積極的なので、市民自治検討委員会のメンバーに入ってもらってはどうかと思う。

生駒市青年団協議会は、市内の青年が個人単位で登録し自発的に活動している団体である。世代別には青年層の参加が必要と思われるので、委員会メンバーの候補になるのではないかと。

スポーツの分野では生駒市体育協会がある。構成員はかなり多い。

安全・安心の分野では、各種団体という枠ではないと思われるが、消防団や警察の参加が必要ではないか。

5．今後の進め方について

今日の議論と各メンバーが提出する各種団体の資料をもとに、次回までに設立準備会で提示された三つの切り口で、具体的な団体を広めにピックアップする。次回は、委員会のメンバーとなる各種団体について、設立準備会に対し説明できるようわかりやすく整理、絞り込みを行うこととする。

職員研修の充実も重要な当面のテーマであるが、今日はもう時間がないので次回以降で検討する。2月中にプロジェクトチームを2回程度開催し、3月中旬には準備会に報告できるように進めていきたい。